

公共施設の実施計画

答 策定と進捗管理に努める



藤野 莞嗣 議員

問 宇美小学校のトイレは、児童が増え、数が足りず支障をきたしているという学校からの要望で、平成25年度予算に基本設計、実施設計が計上された。

しかし、実施設計は、公共施設の長寿命化及び保全計画に合わせて整備していくという理由で、同年度減額補正されている。

その後、トイレに関し、どういう対応と処置をされてきたのか。

学校教育課長 汚水管の洗管、便器の尿石除去、脱臭機の設置等を行っている。

今年度は換気扇の取り換え工事を行う予定。

問 洋式トイレの設置状況は。

課長 洋式トイレの数は十分ではない。

中学校は、3校とも各階に洋式トイレ等を

設置している状況である。

問 基本設計まで行いながら、現在までそのままの状態になっているが、緊急性があつて学校の強い要望で予算化されたのではないか。

教育長 当時は、児童数も増加していくというところで、既設のトイレ改修だけでは対応できないので増築が必要であった。

しかし、1億円程度の工事費がかかり、増築部分については補助金の対象にならず、財政的にも実施は困難となった。

今後は、公共施設長寿命化計画を踏まえ、交付金等を活用した改修等を検討していきたい。

問 昭和の森は、大切な財産、観光資源であり、厳しい財政状況の中

で知恵と工夫を出し合い、子どもたちが安心して遊べる水辺の空間を作ることはできないか。

また昭和の森の全体的な整備計画は。

都市計画課長

新たにプールを設置するのは多額の費用が

かかるので、溪流を利用して水辺の空間を今年度整備する予定である。

今後、公園施設長寿命化計画を策定し、交付金を活用したトイレや施設等の改修を考えている。



宇美小学校のトイレ



鳴海 圭矢 議員

子どもの貧困 支援・対策

答 貧困の連鎖断ち切る努力

問 深刻な社会問題になつている子どもの貧困の問題であるが、当町における小中学生の総数とそのうち要保護、準要保護児童数は、

学校教育課長 平成27年度小中学校の児童生徒数は3,369名。

要保護児童は小学生が48名、中学校が31名。また準要保護は小学生が420名、中学生が245名。

問 文部科学省から、PTA会費、生徒会費、部活費、この3費目を就学援助の費目に加える通達が出ているはずだが、当町の就学援助の項目はどうなっているか。

課長 平成22年度から新たに追加するよう通達が出ているが、全国でもまだ2割以下にとどまっている。

約1,400万円の

経費がかかるため、現在支給に至っていない。

問 就学援助費の支給は4月から6月分を7月に支給することにしているが、前倒しはできないか。

課長 仮に前倒しで支給となると年度前の申請が必要となり、算定を行うシステム改修など新たな負担が生じるので慎重に検討する必要がある。

問 教育行政の中で貧困対策にどのように取り組んでいくのか。

教育長 当町では就学援助を推進しスクールソーシャルワーカーの活用によって各家庭に対する支援を行う。

学習の支援ではコミュニティ・スクールの赤ペン先生の取り組み、中学校では土曜寺子屋を年10回実施し、

小学校では夏休みにサマースクールや公民館学習を実施。

子どもの貧困の連鎖を断ち切るよう努力をしている。

その他の質問
小中学校の教室に
エアコンを



「すべての子どもに質の高い教育を」